綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.490
発行責任者　吉　田　大　樹
編集責任者　吉　田　卓　弘

創立50年記念式典･記念祝賀会を終えて

50周年特別室　式典担当理事　**加藤　大信**

去る７月27日、公益社団法人福島青年会議所の創立50周年記念式典並びに記念祝賀会を開催致しました。

今から遡ること50年前の1963年７月27日、この日は福島青年会議所の創立総会が開催された日でした。それから50年という長い年月を超え、この同じ７月27日という記念すべき日に、歴史の重みを感じながら記念式典・記念祝賀会を盛大に開催出来たことは、今日懸命に活動している現役メンバーのみならず、これまでの歴史と伝統を紡いでこられた先輩方にとりましても大きな喜びを感じて頂けたのではないかと考えております。

そして、これまでの我々の活動を理解し、多大なる協力を頂いた地域社会の皆様に対しましても、改めて感謝の気持ちをお伝えするとともに、今後さらなる発展をお誓いする絶好の機会になったのではないかと感じております。

福島駅西口にあるコラッセふくしまにて開催した記念式典は、福島市長 瀬戸孝則様をはじめとするご来賓の皆様、公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会 会務担当副会長 杉渕孝義君をはじめとする来訪ＪＣの皆様、遥々台湾は南投市よりお越しいただいた、陳煥凱会長をはじめとする、姉妹ＪＣである南投國際青年商會の皆様、そして福島青年会議所ＯＢ会長である渡邊又夫様をはじめとするＯＢ会の皆様を合わせて、326名という大変多くの皆様に会場にお越しいただきました。またそれに加え、現役として活躍している福島ＪＣメンバーを合わせると約400名という大変多くの参加者でこの瞬間をお祝いすることが出来ました。

また、当日は50周年の歴史を振り返る資料展も同時に開催致しました。大変数多くの貴重な資料を掘

り起こし、その中には台湾の南投ＪＣ様との絆、かつて姉妹締結をしていたカナダのビクトリアＪＣ様との繋がり、また先輩方が歩んでこられたまちづくり、ひとづくりに対する情熱を持った各事業に関する取り組みなどがあり、この資料展の開催を通じて私自身、その歴史に触れることが出来ました。福島ＪＣの歩みが刻まれた９ｍにも及ぶ年表は、正に圧巻の一言でした。

記念式典が終了した後に、福島駅東口のホテル辰巳屋に場所を変え記念祝賀会を開催致しました。祝賀会では公務ご多用の中、福島県知事 佐藤雄平様にも足をお運び頂き、お祝いのお言葉を頂戴いたしました。

50周年を共に祝い祝杯を上げることで、また懐かしい顔を見たりし、思い出話に花を咲かせることで、皆様の笑顔があふれた楽しい祝賀会になったのではないかと思います。アトラクションとして、みやぎびっきの会の皆様に素敵な歌を披露して頂き、会場を盛り上げて頂きました。式典の緊張感のある厳粛な空気とは打って変わって、非常に賑やかな雰囲気でお祝いできるのも、メリハリのある福島ＪＣの一つの伝統なのではないかと感じた次第です。

この式典を開催するための準備を進める中で、「50年前の認証式、設立総会から、福島青年会議所の式典は非常に格式がある」「式典上手が福島ＪＣの伝統だから」「きっちりと出来て当たり前なのだ」というお言葉、また「式典担当は大変だと思うが頑張れよ」といった励ましのお言葉も幾度と無く頂きました。そういった叱咤激励を頂きながら、決して失敗はできないというプレッシャーも感じつつ、それでもこの大きな節目に運良く担当として携われたのだという喜びを味わいながら、懸命に準備を進めてまいりました。そして先輩方がこれまで築いてこられた素晴らしき式典運営の伝統を汚すことなく、格式ある格調高い、県都福島に福島ＪＣ有りと思って頂けるような記念式典・記念祝賀会を開催出来たのではないかと自負しております。これが正に、設立当初から培ってきた伝統であり、福島青年会議所ならではの矜持なのであろうと実感致しました。

そして何より、一切の労を惜しまず、どんな作業や役割も厭わず協力してくれた素晴らしい仲間がいてくれたからこその成功であるということは言うまでもありません。

創立より半世紀が経過した今、本年のスローガンにもある通り継承しそして進化する、この想いは今後続いていくであろう60年、70年…次なる大いなる節目である100周年へと向けて受け継いでいってほしい、受け継いでいかなければならない伝統であると確信しております。きっと、その頃100周年を迎える後輩たちには、これまで以上の更なる発展を遂げていてほしいということを願ってやみません。

今回の50周年記念式典・祝賀会を皆様と共にお祝いさせていただいたということ、歴史の瞬間に素晴らしい仲間と立ち会えたことに心より感謝し、担当者としての言葉とさせていただきます。
本当にありがとうございました。